

01 トール油蒸留パイロットプラント、化学遺産に認定

トール油蒸留パイロットプラントが、2025年2月に、日本化学会により「化学遺産」に認定されました。

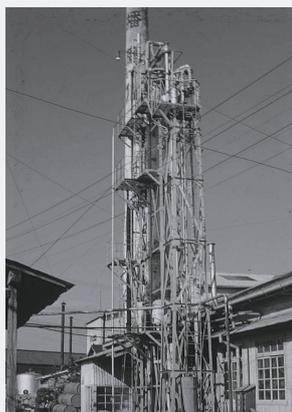
パイロットプラントは、当社がトール油事業に進出するにあたり、実プラント設計のためのデータを収集する目的で1957年8月に建設されました。その後、6カ月にわたり、試験運転を繰り返して得たデータをもとに、1958年10月、日本で初めてのトール油蒸留プラントが完成しました。創業者（故）長谷川末吉は、松から得られる未利用の資源であったトール油（松の油）の有効利用を目指し、その想いを実現したこのトール油蒸留プラントの建設費は、1億2000万円。当時、資本金800万円、年間売上高4億円の当社にとって、まさに社運を懸けた大事業でした。



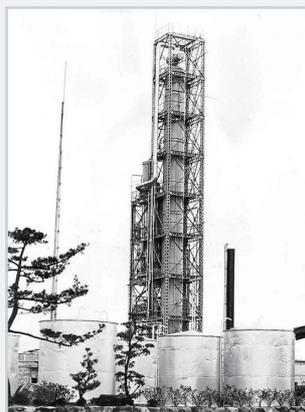
近年、世界的にSDGsへの意識が高まり、環境を重視した製品が求められている中、植物由来の素材を活用した化学製品の需要が増加しています。当社は、石油化学由来の製品が全盛期を迎えていた時代にも天然資源にこだわり、先を見据えたものづくりを追求し、紙の原料であるパルプを製造する際に発生する粗トール油の研究開発に取り組み、国内初のトール油蒸留プラントの建設に成功しました。長年松から得られる有用物質を原料にした製品で人々の豊かなくらしを支えてきましたが、それはこのパイロットプラントがあったからこそ実現できたものです。

現在も当社基幹工場の加古川製造所（兵庫県加古川市）に記念碑として残しており、工場見学に訪れた業界関係者や一般見学者に対して紹介しています。また、当社従業員には「先人が企業風土として育んだ進取と挑戦への気概を忘れないための象徴」として大切に受け継がれています。

今後も、挑戦する心意気を持ち続け、社会に役立つ製品やソリューションを提供するとともに、株主様、取引先様にご満足いただける企業でありたいと思っています。



パイロットプラント
(1957年に建設)



初代実プラント
(1958～1973年)



パイロットプラント
(記念碑として2012年に移設)

化学遺産は、創立140年を超える国内最大の化学学会「日本化学会」が日本の化学技術の発展における歴史資料の中でも特に貴重なものを認定するものです。これらの資料を次世代に受け継いでいくとともに、化学分野の技術と教育の向上・発展に寄与することを目的とし、2010年に制定されました。

16回目を迎えた今年も、当社を含む5件が認定されたことで、認定された化学遺産は合計72件となりました。

02 国際持続可能性カーボン認証「ISCC」を取得

当社は、国際持続可能性カーボン認証ISCC (International Sustainability and Carbon Certification) PLUSならびにISCC EUを2025年1月に取得しました。ISCCは、バイオマス原料やリサイクル原料などといった素材が、サプライチェーン全体で適切に管理されていることを証明するものです。当社は、松材からパルプを製造する際に発生する副生物「粗トール油」(crude tall oil, CTO)を蒸留して得られる化学品を原料に、樹脂・化成品、製紙用薬品、電子材料をつくっています。この度は、トレーサビリティを確保したCTOの調達から、当社製品販売までの流れを対象とした認証取得となります。尚、対象グループ会社は、北米の製紙会社からCTOを調達する「Harima USA」、そのCTOを蒸留する「ハリマエムアイディ」、CTOの蒸留から得られたロジンなどの原料を加工して販売する「ハリマ化成」の3社です。これにより、環境配慮の観点で取引条件が厳しくなっている全世界の顧客に対して、より信頼性の高い製品供給が可能となり、更なるビジネス機会の拡充が見込まれます。

03 国際自動車産業品質規格「IATF 16949」認証を取得

当社は、自動車向け電子材料の製造を行う各海外拠点「Harimatec Czech (チェコ)、杭州哈利瑪電材技術 (中国)、Harimatec Malaysia (マレーシア)、Harimatec (米国)」において、自動車産業の国際的な品質マネジメントシステム規格「IATF 16949」認証を2025年3月に取得しました。本認証は、欧米の自動車メーカーや産業団体から構成される、国際自動車産業特別委員会International Automotive Task Force (IATF)が策定した同産業に特化したマネジメントシステムの規格です。多くのメーカーが調達部品の採用基準として導入しており、年々その信頼度と価値が高まっています。本認証を取得したことで、国際的な基準に基づいて、より信頼性の高い製品・サービスを提供するとともに、事業成長を加速させていきます。

04 「ひょうごフィールドパビリオン」参加事業者に認定

当社は、SDGs体験型地域プログラム「ひょうごフィールドパビリオン」参加事業者として、2025年2月に認定されました。「ひょうごフィールドパビリオン」は、「大阪・関西万博」にあわせて兵庫県が主催する企画で、「県全体を展示館 (パビリオン)に見立て、地域のSDGsを体現する活動の現場 (フィールド)を地域の人々が主体となって発信し、多くの人に見て、学んで、体験していただく」ものです。1947年に兵庫県加古川市に創業された当社は、加古川市に基幹工場の加古川製造所があり、今回の地域プログラムについて、一般の方を迎える工場見学ツアーを実施しています。



詳しくは、こちらをご覧ください：
<https://expo2025-hyogo-fieldpavilion.jp/program/233/>



05 再エネ促進プロジェクト「ひょうご版再エネ100」に賛同

当社は、兵庫県および(公財)ひょうご環境創造協会が推進する再生可能エネルギー普及・促進プログラム「ひょうご版再エネ100」に賛同し、脱炭素化を推進する事業者として登録されました。当社を含む、県内14の事業者 (2025年5月現在) が、「電力だけでなく熱を含むエネルギー消費のできる限りすべてを、できるだけ地産地消の再エネで賄おう」というプロジェクトの理念に共感し、脱炭素化を推進しています。

06 新たな製品・技術が登場

当社は、パインケミカル、樹脂合成、乳化・分散、金属接合をコア技術として製品開発を行っています。2024年度中も、多くの新製品を上市するとともに、各種展示会で公開しました。また、デジタル技術を活用して材料開発を行うマテリアルズ・インフォマティクス(MI)手法を採用することで、研究開発の合理化とスピードアップを図り、より効率的に新製品を生み出していきます。

「バイオマス系アスファルト再生用添加剤」の開発

2024年10月29日～31日
「サステナブル マテリアル」展示会

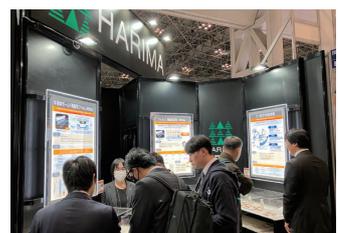
国立研究開発法人土木研究所および日本大学との共同研究により「バイオマス系アスファルト再生用添加剤」を開発しました。この添加剤は、植物由来原料を使用しているため、環境負荷を大幅に低減できるとともに、少量でも劣化アスファルトを再生します。また、耐劣化性に優れるため、道路インフラの持続可能性を高めます。アスファルト再生用添加剤は、気候条件や交通量などにより劣化して硬くなったアスファルトを回復させ、再利用可能な状態に戻します。今回新たに開発した製品は、再生可能天然資源である松から得られるロジンをはじめとした原料を使用しているため、環境にやさしく、サプライチェーン全体の低炭素化に貢献します。性能面では、従来品の標準的性能を満たし、少ない添加量でも同等以上の再生効果を示しています。また、アスファルトの劣化を抑制する効果が期待できるため繰り返しの再生にも有効です。従来品では回復が不十分な柔軟性を高めることで、道路の長寿命化や持続可能なインフラを実現します。今後は開発品を使用した混合物評価や試験施工のデータ蓄積を重ね、社会実装を目指しています。



「半導体モールド用離型フィルム」の開発

2025年1月22日～24日
「ネブコン ジャパン」展示会

半導体の製造工程の最適化および環境負荷低減を実現する「半導体モールド用離型フィルム」を開発しました。半導体製造の後工程である圧縮成形では、金型とモールド樹脂の間に離型フィルムを挟み込むことで金型の汚れを抑えます。当社開発品は、高いガスバリア性により成形時に発生する昇華物を遮断することで、清掃頻度をさらに減らし工程改善に大きく寄与します。柔軟性をもった樹脂設計で使用目的に合わせてカスタマイズ可能な上、シリコン・非シリコンの用途に適用し、多様な場面でご利用いただけます。有機フッ素化合物(PFAS)フリーで環境にやさしく、サプライチェーン全体を配慮した製品です。現在、国内外顧客へのサンプルワークを進めており、早期の実績化を図るとともに、2030年に向けて市場シェア約30%獲得を目指しています。



当社ブースの様子

「高吸収型天然カロテノイド大量生産システム」の実証

2025年1月29日～31日
「nano tech 2025」展示会

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が展開している「カーボンリサイクル実現を加速するバイオ由来製品生産技術の開発」事業において、「高吸収型天然カロテノイドの大量生産システム実証」として助成を受けており、公益財団法人地球環境産業技術研究機構(RITE)と共同で実施しています。国際ナノテクノロジー総合展・技術会議「nano tech 2025」ではNEDOブース内で出展し、助成案件の概要を説明しました。今後、開発を進めて早期の実績化を図るとともに、各種展示会や業界イベントで紹介する予定です。



NEDOブース内、当社紹介ポスター

07

(公財)松籟科学技術振興財団、 2024年度研究助成者を発表

当社が支援する松籟科学技術振興財団(理事長:長谷川吉弘、ハリマ化成グループ株式会社代表取締役社長)は、2025年3月に執り行われた研究助成金贈呈式において、2024年度の助成研究者を発表しました。当財団は1983年設立以来、科学技術に関する調査・研究に対する助成・奨励を行うことで、科学技術の振興と世界文化の発展に寄与してきました。2023年に創立40周年を迎えたことを機に、研究助成1件当たり、従来の100万円から200万円に増額し、より充実した支援を目指しています。今回の贈呈により、助成件数の総数は823件、助成額は累計9億3,290万円となりました。今後も助成、奨励事業を通じて科学技術の振興に貢献していきます。



長谷川理事長と受領者代表
広島大学 古水千尋助教(現 鳥根大学准教授)

08

マリーゴールド園、 人気を集めています

加古川製造所で開園しているマリーゴールド園は、35万株におよぶオレンジ色の花々が明るく咲き誇り、来園者を魅了し続けています。製造所のある水足地区にちなんだ「水足ハロウィーン」や「水足クリスマス」といった季節のイベントごとに、1,000名以上の来場者が訪れ、各種メディアでも多く取り上げていただいています。



Googleマップをはじめとする地図アプリでは「マリーゴールド園」で検索すると、当社マリーゴールド園が第1位にヒットし、とてもアクセスしやすいです。最新情報はもちろん、お越しの際にはぜひお役立てください。

PICK UP

極美味ビーフカレーをご賞味ください

ハリマ食品の主力商品である「極美味ビーフカレー」は、コク深くスパイシーな「レギュラー」と、辛さを控えたフルーティーな甘さの「マイルド」を、食べ応えのある230g(1人前)で展開しています。

こだわり抜いた深い味わいを、ぜひご賞味ください。お買い求めの際は、ハリマ食品のオンラインショップをご利用ください。



www.harimafoods.com

ゴルフ & スパリゾート「作州武蔵」にお越しください

ハリマ化成商事が経営する「作州武蔵カントリー倶楽部」と「ホテル作州武蔵」は、岡山県美作市の豊かな自然に囲まれたリゾートです。ゴルフ場は、手入れの行き届いたコースとカントリーサイドならではの開放感で来場者を魅了し続け、今年で開業50周年を迎えます。お客様にご満足いただけるよう、きめ細やかなサービスとともに、鮮やかなグリーンの維持や設備の快適性にこだわっています。「ホテル作州武蔵」では、ゆったりとした客室74室と天然温泉大浴場、レストランでは旬の食材を使った季節ごとの料理をお楽しみいただけます。皆様のお越しを心よりお待ちしております。



Googleマップ
アクセス・口コミ



ゴルフ 0868-77-0153 ホテル 0868-77-1380

〒707-0124 岡山県美作市大町878 <美作I.Cより車で約8分>

www.sakushu-musashi.co.jp



ハリマ化成グループ株式会社

www.harima.co.jp



2025. 4. 13, 神戸, 東播, <ハリマ化成の設備、化学遺産に認定、トール油蒸留のパイロットプラント>

ハリマ化成の設備 化学遺産に認定

加古川製造所

公益社団法人「日本化学会」が、化学に関する貴重な歴史資料の保存と利用の推進を目的に、09年度から毎年認定している。

同製造所では松から採れるロジン（松やに）などを使って化学製品を製造している。松材から紙パルプを製造する際に副産物としてできる粗トール油の精製設備建設を目指し、1957年、データ収集目的でパイロットプラントを建設。そのデータを基に58年、日本初のトール油精留プラントが完成した。

同社は「有用物質を原料にした製品で人々の暮らしを支えてきたが、それはパイロットプラントがあったからこそ実現できた」とし、製造所の敷地内に記念碑として保存。「先

記念碑として保存「挑戦の風土忘れない」

日本の化学技術の発展に寄与した歴史的資料を認定する「化学遺産」に、ハリマ化成加古川製造所（加古川市野口町水足）のトール油蒸留パイロットプラントが選ばれた。県内では、2021年3月に再製樟脳（現日本テルペン化学）神戸工場の蒸留塔が認定されて以来となる。

（増井哲夫）



化学遺産に認定されたトール油蒸留パイロットプラント=いずれもハリマ化成加古川製造所

トール油蒸留のパイロットプラント

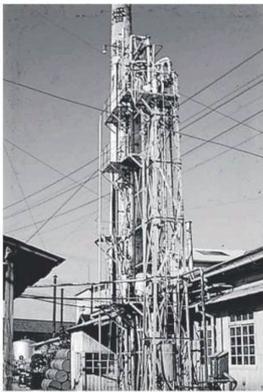
万博フィールドパビリオンに、毎月1回無料見学会

人が企業風土として育んだ進取と挑戦への気概を忘れないための象徴」としている。

また、大阪・関西万博に合わせた体験型観光事業「ひょうごフィールドパビリオン」のプログラムとして、同社は製造所見学（無料）を展開。化学遺産を間近に見ることができ、毎月1回開催する予定で、フィールドパビリオン公式サイトと同プログラムのページQRコードから申し込み。問い合わせはメール（s-kakogawa@harima.co.jp）で。



今回の化学遺産認定では、ハリマ化成のパイロットプラントを含む5件が選ばれ、計7件となった。県内ではこれまでに、日本のセルロイド工業の発祥を示す資料（姫路市網干区）、板ガラス工業の発祥を示す資料（尼崎市）などが認定されている。



1957年に建設されたトール油蒸留パイロットプラント（ハリマ化成提供）

社説

2025.4.14

基礎研究を励まし続ける爽やかな風

カーボンニュートラル、競争力を失った製品・事業からの撤退と新規事業の創出、人手不足の解消、先端技術への対応など、環境変化の激しい時代にあつて企業の課題は山積している。各社とも生き残りには必死で、経営陣も従業員も知恵を絞り、汗をかいている。そのなかで日本の科学技術の発展を願い、有望な研究を対象に助成金事業を長年にわたって続けている一企業の姿が尊く映る。

ハリマ化成グループが運営する松籟（しょうらい）科学技術振興財団は1983年の設立以来、基本財産の運用益と寄付金を資金に、これまでに823件、総額9億3290万円を助成してきた。ノーベル化学賞受賞者の野依良治博士、鈴木章博士への助成実績もある。当初の助成金は1件100万円。2年前に諸物価高騰の折、不十分と判断、200万円に増額された。助

成金は装置や消耗品の購入、学生の学会派遣などに活用される。研究者が思い切り研究に集中できる環境の大きな支えとなるだろう。

この活動は、ハリマ化成グループの創業者である長谷川末吉氏が松から得られるトル油の事業化に取り組み、軌道に乗せた実績が評価され、

当時の科学技術庁（現文部科学省）から表彰されたのがきっかけだった。荣誉に感じた末吉氏が、日本の科学技術の振興に貢献したいとの思いから財団を設立した。トル油事業の端緒となった加古川製造所にあるトル油蒸留パイロットプラントは今年2月、日本化学会から「化学遺産」の認定を受けている。

現在理事長の長谷川吉弘氏（ハリマ化成グループ社長）は「あまり大きなことは出来ない、ささやかな助成だが、今後も末永く続け、科学技術振興に役立ちたい」と謙遜す

る。だが、40年あまり経過しても設立趣旨を変わずに受け継ぎ、日本の未来を担う研究者を励まし続ける。論文発表数の減少など日本の基礎研究力の低下が憂慮されている今日において、その活動は輝きを増してみえる。

長谷川理事長は、先ごろ行われた今年度の贈呈式で研究者の「ひらめき」にも言及した。「ひらめき」と思っ、ひらめけるわけではない。どこかでインプットされた情報がある時、ひらめくもの。いろいろな情報を頭に入れてほしい」。そう語り、今年度の受賞者と、選考委員である著名な研究者らの交流を温かい眼差しで促していた。

「松籟」とは松の梢を吹き抜ける風や、その音。世知辛く世界情勢も不透明な昨今、企業が、こんなにも爽やかな風を吹かせる力を秘めていることに、改めて思いを巡らせるのもよいだろう。